授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ　(CF201)			担当教員	井上　英也（実務家教員）		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ねらい	アクティブラーニングの類型
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。	課題レポート	10%
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。	授業への積極姿勢	30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、課題に対する新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。	授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル･旅館･観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。	プレゼンテーション	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

①　「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
②　「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。
③　「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
④　「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークのとりまとめなどをもとに評価する。
尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。

授　業　の　概　要

近隣ホテルの視察、研究を通じ、ホテル運営全般の理解を深める。また、福岡、沖縄など地域ごとに様々なカテゴリーのホテルを研究する。個人またはグループの研究は、プレゼンテーションを通じて他のメンバーと成果を共有しながら授業をすすめる。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特になし / 参考書：演習時に提示する　　指定図書：「真実の瞬間」ヤン・カールソン

授業外における学修及び学生に期待すること

①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。
②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。
③「宿泊業論」･「ホテルオペレーション」･「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。
④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。
⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習習・復習
1	オリエンテーション ホテル業の概要	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 現在の日本と世界のホテル業界の動向を学ぶ。	（予習）シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	（予習）本ゼミにおける個人の目標を考えておく
3	ホテル視察　Ⅰ	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルアムステルダム予定)	（予習）ホテルアムステルダムについてウェブサイトで調べておく
4	ホテル視察Ⅰの振り返り 客室部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの客室部門に関する基礎を理解する。	（予習）視察した内容をまとめておく
5	ホテル視察　Ⅱ	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルオークラ JR ハウステンボス予定)	（予習）ホテルオークラ JR ハウステンボスについてウェブサイトで調べておく
6	ホテル視察Ⅱの振り返り レストラン部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルのレストラン部門に関する基礎を理解する。	（予習）視察した内容をまとめておく
7	ホテル視察　Ⅲ	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルヨーロッパ予定)	（予習）ホテルヨーロッパについてウェブサイトで調べておく
8	ホテル視察Ⅲの振り返り 宴会・婚礼部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの宴会・婚礼部門に関する基礎を理解する。	（予習）視察した内容をまとめておく
9	ホテル試泊 長崎県内のホテルを試泊	長崎県内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 （ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒル予定）	（予習）ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒルについてウェブサイトで調べておく
10	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	（予習）試泊した内容をまとめておく
11	ウェディング施設　視察	佐世保周辺のウェディング施設を視察する。 （ハーバーテラス SASEBO 迎賓館予定）	（予習）ハーバーテラス SASEBO 迎賓館についてウェブサイトで調べておく
12	ウェディング施設視察の 振り返り 婚礼業界の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ウェディング・ビジネスに関する基礎を理解する。	（予習）視察した内容をまとめておく
13	博多地域　ホテル研究 シティ・ホテルの概要理解	博多周辺の大手ホテルチェーン傘下のホテルに関し、ブランドごとの特徴を理解する。	（予習）博多地域にある大手ホテルチェーンのホテルを調べておく
14	沖縄地域　ホテル研究 リゾートホテルの概要理解	沖縄にあるリゾートホテルの地域および各ホテルの特徴を理解する。	（予習）沖縄にあるリゾートホテルを調べておく
15	専門演習ＩＡのまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	（予習）グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA(CF201)			担当教員	落合　知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
博物館等の見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。	⑥⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。	授業・調査への参加度	10%
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。 書籍や論文を読み分析力を養うことができる。	事前・事後学習	30%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。	調査における態度	50%
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べることができる。	プレゼンテーション	10%
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が50%、情報収集・分析力が30%、プレゼンテーションおよびその他が各10%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。

授業の概要

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。
・書籍・文献調査の課題提示はポートフォリオを通して行う。
・勉強会を実施する。
・研究発表会を行う。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。

参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）

指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

※見学・調査費用は実費とする。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：卒業研究章立て
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	卒業研究の説明	卒業研究の書き方の説明。	予習：卒業研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の指導	卒業研究の章立てをする。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の指導	卒業研究の章立ての指導。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の指導	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の指導	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の指導	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究の書き方の説明。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の提出と添削	添削された卒業研究を修正する。	予習：課題の修正 復習：課題の修正
15	前期課題の受理	前期のまとめとして、修正した研究成果を提出する。	予習：課題提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA(CF201)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬	⑪⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。	模擬試験	20%
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業かなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。	模擬試験	30%
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。かつ積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。	グループディスカッション	40%
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。客のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。	グループディスカッション	10%
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質問に対して回答する。これらグループディスカッションの取り組みを評価する（評価比率50%）。また、模擬試験を3回受験し、この点数を基に評価する（評価比率50%）。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。

授業の概要

本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものを範囲として、学生主体で問題を解きながら進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。

教科書・参考書

教科書：『旅行業実務シリーズ1　旅行業法及びこれに基づく命令』　JTB総合研究所
『旅行業実務シリーズ2　旅行業約款　運送・宿泊約款』　JTB総合研究所

指定図書：『旅行業実務シリーズ1　旅行業法及びこれに基づく命令』　JTB総合研究所
『旅行業実務シリーズ2　旅行業約款　運送・宿泊約款』　JTB総合研究所

授業外における学修及び学生に期待すること

欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。

単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。国試合格のためにも、模試を受験すること（模試費用は5.500円）。なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないので注意してください。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	ルーブリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
3	旅行業法（1）	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第 1～6 条の予習、復習
4	旅行業法（2）	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第 7～11 条の予習、復習
5	旅行業法（3）	料金掲示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第 12 条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法（4）	外務員、広告、標識、企画旅行の円滑な実施措置	第 12 条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法（5）	旅程管理業務、禁止行為、旅行業者代理業	第 12～14 条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法（6）	業務改善命令、旅行業協会、旅行サービス手配業	第 18 条～該当箇所の予習、復習
9	旅行業約款（1）	募集型企画旅行の部 第 1 章総則、第 2 章契約の締結	募集型企画旅行の部 第 1～12 条の予習、復習
10	旅行業約款（2）	募集型企画旅行の部 第 3 章契約の変更、第 4 章契約の解除	募集型企画旅行の部 第 13～16 条の予習、復習
11	旅行業約款（3）	募集型企画旅行の部 第 4 章契約の解除、第 5 章団体契約、第 6 章旅程管理	募集型企画旅行の部 第 13～26 条の予習、復習
12	旅行業約款（4）	募集型企画旅行の部　第 7 章責任	募集型企画旅行の部 第 27～28 条の予習、復習
13	旅行業約款（5）	募集型企画旅行の部　第 7 章責任 受注型企画旅行の部	募集型企画旅行の部 第 29～30 条の予習、復習 受注型企画旅行の部 第 1～7 章の予習、復習
14	旅行業約款（6）	手配旅行契約の部、旅行相談の部	手配旅行契約の部 第 1～7 章の予習、復習 旅行相談の部の予習、復習
15	運送・宿泊約款	運送約款、宿泊約款の概要と重点ポイント	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ (CA111)			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようになる。この説明は、２つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。	④⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。	期末レポート	10%
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。	期末レポート	25%
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。 ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。	ゼミ内発表会 演習参加状況	35% 10%
協働・課題解決力	三川内町でのフィールドワークの際、３年生と一緒に調査を行うことができる。	フィールドワーク参加	10%
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。	演習への参加状況	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

１．評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。
２．フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）

授　業　の　概　要

（１）調査の準備のしかた、行程の作り方の基礎を学ぶ。（２）調査対象地の窯元の方々や、地域住民の方たちと交流する。（３）資料調査を通じ、研究対象への理解を深める。また現地調査に気づいていたことを自分の中で再確認し、言語化する。（４）学修の成果を目に見える形にする。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、90 分です。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：指定しない。
参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。
指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器．吉川弘文館.

授業外における学修及び学生に期待すること

（１）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（２）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習)シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習)指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	１年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	（予習）対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	（予習）自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。 （復習）指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	（予習）演習で提示できるようにスケジュール案を作成する（復習）スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	（復習）次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告（速報）	（予習）5 分程度の報告メモを作成・印刷する。（復習）各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	（予習）所定の資料の要約 (復習)「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第８週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。 ②プレゼンテーションの内容を、リーフレット（A4 版１ページ）にまとめる。	（予習）プレゼンの作成 （復習）見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3		
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション（３分間） ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	（予習）プレゼンの練習 （復習）①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	（予習）三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA (CF201)			担当教員	田中　誠		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
・身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。	①⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。	・テスト	25%
情報収集、分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考･判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。	・受講者の発表	30%
コミュニケーション力	(1)基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。 (2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。	(1) 受講者の発表 (2) 課題	25% 20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

1．毎回、コミュニケーション力をつけるための英文音読筆写の課題を提出してもらう。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。
2．15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。
3．担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

授業の概要

英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC の基礎を学ぶ。　（コースの指定は特にしない。）
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。
参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ 』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
指定図書：『英語はもっと科学的に学習しよう』 白井恭弘(著)、中央出版。

授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力がＮ1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「イメージでつかむ」前置詞	前置詞のイメージ、翻訳研究、ディスカッション TOEIC 問題	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	１つに決まる the	冠詞のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	導く that を使いこなす	導く that のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①。（レベル１）、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	迫ってくる「現在完了」	ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、現在完了のイメージ	予習：TOEIC 41-50 について調べる、小テスト準備 復習：英文 41-50 音読筆写
8	躍動する「進行形」	進行形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	すべての-ing は躍動する	躍動する-ing 形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	未来を表す表現	ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、未来表現の方法	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	助動詞を使いこなす	助動詞の使い方、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②（レベル１）、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	過去形が「過去じゃない」とき	過去形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	仮定法を使いこなす	英単語もイメージで、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、小テスト	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ（CF201）			担当教員	中山　忠彦		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ＩＡ・ＩＢでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツ指導体験」を３大目標として、演習を展開します。ＩＡでは、各種ワークを通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます（コミュニケーション力）。また、PC もしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します（メディアリテラシー）。様々なスポーツ体験と指導体験を通して、「する」「ささえる」観点からスポーツの意義の理解を深めます。遠隔授業にて実施する場合もあります。	①　②　⑤ ⑦　⑩　⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・スポーツの意義を説明することができる。	・課題レポート	30%
情報収集、分析力	・PC もしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。	・作業課題	20%
コミュニケーション力	・自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。	・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%
協働・課題解決力	・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。	・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%
多様性理解力	・自分自身の特長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。	・受講態度	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・ワークへの取り組みと成果を評価する（評価比率：40%）。フィードバックについては、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。
・メディアリテラシーの作業課題を評価する（評価比率：20%）。フィードバックについては、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。
・課題レポート（評価比率：30%）：「「する」「ささえる」スポーツ体験からの気づき」について評価する。第 15 回授業時にフィードバックする。
・受講態度（評価比率：10%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。

授　業　の　概　要

本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ（指導）体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない
参考書：「トレーニング指導者テキスト　実践編　改訂版」NPO 法人日本トレーニング指導者協会(編)（大修館書店）ISBN：978-4-469-26754-9
指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3

授業外における学修及び学生に期待すること
授業外における学習：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。 **学生に期待すること**：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・演習授業の進め方についての説明 ・メディアリテラシー（連絡網作成） ・自己紹介と他己紹介	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（メール設定） ・前学期の省察を行い、目標を設定	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	新体力テスト①	・新体力テストの意義と実践	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
4	新体力テスト②	・新体力テストの実施と記録①	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
5	新体力テスト③	・新体力テストの実施と記録②	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
6	コミュニケーションスキル①	・自分の考えを「伝える力」 ・コミュニケーションワーク（スポーツをはじめるきっかけ）	予習：円滑なコミュニケーションの方法について調べる 復習：日常の会話で「伝える力」を意識し実践する
7	コミュニケーションスキル②	・他者の考えを「聴く力」 ・コミュニケーションワーク（スポーツキャリア）	予習：円滑なコミュニケーションの方法について調べる 復習：日常の会話で「聴く力」を意識し実践する
8	スポーツ体験① 運動遊び	・コミュニケーションワーク（交流） ・メディアリテラシー（文字入力）	予習：運動を楽しむための手法を調べる 復習：楽しい運動遊びの立案
9	スポーツ体験② レクリエーションスポーツ	・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（タイピング練習）	予習：レクリエーションスポーツの意義を調べる 復習：選択したレクリエーションスポーツの実践
10	スポーツ体験③ ボールゲーム	・コミュニケーションワーク（チームビルディング） ・メディアリテラシー（アプリ活用）	予習：ボールゲームの特性を調べる 復習：誰もが楽しめるボールゲームの立案
11	スポーツ指導体験①	・コミュニケーションワーク（共有） ・メディアリテラシー（図の描画）	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
12	スポーツ指導体験②	・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（エクセル計算）	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
13	スポーツ指導体験③	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（表の作成）	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
14	トレーニング実践	・コミュニケーションワーク（調和） ・メディアリテラシー（文書作成） ※課題レポート（提出期限：15 回授業の前日）	予習：選択した専門スポーツについての調査 復習：専門スポーツに応じたトレーニング実践
15	総合復習	・コミュニケーションワーク（交流） ・課題レポートのフィードバック ・総合復習	予習：これまでの活動の振り返り 復習：活動を振り返り、スポーツの意義を再確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ　(CF201)			担当教員	落合　和昭（実務家教員）		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
ホスピタリティは、観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。これらにより、将来のホテル事業を牽引する人材を育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。	②④ ⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	ホテルにおける主な業務を部門別に理解し、相互に及ぼす影響に関しても想像することができる。	課題レポート	10%
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集し、感染症対策などホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。	授業への積極姿勢	30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、感染症の影響など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。	授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行客など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。	プレゼンテーション	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

①　「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
②　「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。
③　「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
④　「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークとりまとめなどを基に評価する

授業の概要

・ホテルの業務概要を学び、成果としてホテルビジネス実務検定の問題にチャレンジする。
・近隣ホテルの視食や施設見学を行い、ホテルの実情を体感する。
・感染症対策など、最新のホテル事情についても理解を深める。

また、授業の理解度をホテルビジネス実務検定の過去問回答やレスポンなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：ホテルビジネス「基礎編」（一般財団法人日本ホテル教育センター）　　指定図書：演習時に指定する。

授業外における学修及び学生に期待すること

①　ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。
②　ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。
③　「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	（予習）シラバスを読んでおく。
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	（予習）本ゼミにおける個人の目標を考えておく。
3	ホテルの組織	一般的なホテルの組織に関して説明を受け理解する。	（予習）ホテルの組織について調べておく。
4	ホテルの仕事①	教科書および職務基準書に基づき、宿泊部門の主な仕事を理解する。	（予習）宿泊部門の仕事に関する質問を考える。
5	ホテルの仕事②	ホテルビジネス実務検定の宿泊部門について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
6	ホテルの仕事③	教科書および職務基準書に基づき、料飲部門の主な仕事を理解する。	（予習）料飲部門の仕事に関する質問を考える。
7	ホテルの仕事④	ホテルビジネス実務検定の料飲部門について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
8	ホテルの仕事⑤	教科書および職務基準書に基づき、宴会部門の主な仕事を理解する。	（予習）宴会部門の仕事に関する質問を考える。
9	ホテルの仕事⑥	ホテルビジネス実務検定の宴会部門について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
10	ホテルの仕事⑦	教科書に基づき、調理部門およびホテルの基礎について理解する。	（予習）調理部門の仕事に関する質問を考える。
11	ホテルの仕事⑧	ホテルビジネス実務検定の調理部門およびホテルの基礎について、過去問にチャレンジする。	（復習）自分の回答について教科書を確認する。
12	ホテル視察	近隣のフルサービス型ホテルを視察し、仕事の実情や感染症対策の現状を把握する。	（予習）視察予定のホテルに関して調べておく。
13	ホテル視察のプレゼンテーション	視察したホテルの結果についてプレゼンテーションを行い、実態の理解を深める。	（予習）視察した内容をプレゼンテーションにまとめておく。
14	ホテルビジネス検定模試	ホテルビジネス実務検定２級（若しくは１級）模試を行う。	（予習）対象範囲の復習をする
15	専門演習ＩＡのまとめ	学んだことをとりまとめ、発表する。その際、現在行われている安全予防対策についても総括する。	（予習）発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	**専門演習ＩA(CF201)**			担当教員	乙須　翼		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書等の文献を読み、レジュメを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを**「学校から世界を見る」**とし、受講者が、学校という場所の国際比較を通して日本と世界の教育文化の違いを理解するとともに、世界の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。	①⑤⑥⑧⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。	レジュメ 発表と議論	15% 15%
コミュニケーション力	指定された形でレジュメを作成し、発表することができる。 特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。	レジュメ 発表と議論	20% 30%
協働・課題解決力			
多様性理解力	日本の学校の基本的な特徴を説明することができる。 日本と他国の学校を比較し、その違いや共通点を、背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。	レジュメ 発表と議論	10% 10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。

授業の概要

授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 比較教育に関する文献を読み、学校を比較する視点や意義について理解する。2. 日本の学校の特徴について基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し、国による教育の違いを大まかに理解する。4. 各自興味を持った国を選び、その国の学校について文献を用いて紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する）　指定図書：二宮皓編著『新版 世界の学校』(2013) 学事出版
参考書：二宮皓編著『世界の学校』(2006) 学事出版　文部科学省『諸外国の教育動向 2021 年度版』(2022) 明石書店　OECD『図表でみる教育 OECD インディケータ 2021 年版』(2022) 明石書店

授業外における学修及び学生に期待すること

※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。
※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。
・教職課程を履修しているもの　・将来指導者等として子どもに関わろうとするもの
・子どもや教育の問題について関心のあるもの　・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味があるもの
※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する者）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。
※専門演習ＩA 終了後、夏期休暇中の課題として本１冊の講読を求める（ＩBにて発表)。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予）シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ･ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）前学期の省察と本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	興味関心を高める	世界の子どもの教育に関わる新聞記事について各自発表し、興味関心を高める。	予）新聞記事の収集 復）議論を振り返る
4	考察の視点を学ぶ①	比較教育に関する文献を読んで､学校を比較する視点や意義について理解する。	予）指定された文献の講読 復）キーワードを中心に文献を復習する
5	考察の視点を学ぶ②	比較教育に関する文献を読んで､学校を比較する視点や意義について理解する。	予）指定された文献の講読 復）キーワードを中心に文献を復習する
6	考察の視点を学ぶ③	比較教育に関する文献を読んで､学校を比較する視点や意義について理解する。	予）指定された文献の講読 復）キーワードを中心に文献を復習する
7	基礎知識の確認をする①	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予）日本の学校の特徴を整理する 復）日本の学校に関する基本的事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予）日本の学校の特徴を整理する 復）日本の学校に関する基本的事項の復習
9	基礎知識の確認をする③	国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し､国による教育の違いを大まかに理解する。	予）外国の教育について知っていることを整理する 復）世界の教育に関する基礎データの復習
10	報告手法を習得する	報告手法（担当者の割り振り､文献の報告箇所の確認、レジュメの作成方法･形式、プレゼンテーションの方法など）を説明する。	予）プレゼンテーションの手法について調べる 復）報告手法の確認
11	報告の準備をする	報告手法を再度確認し、担当箇所の報告準備を行う。	予）報告準備 復）報告準備の継続
12	報告・議論する①	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予）報告準備と文献の該当箇所の講読 復）レジュメをもとに議論を振り返る
13	報告・議論する②	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予）報告準備と文献の該当箇所の講読 復）レジュメをもとに議論を振り返る
14	報告・議論する③	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予）報告準備と文献の該当箇所の講読 復）レジュメをもとに議論を振り返る
15	報告・議論する④	日本と世界の学校の違いについて本演習で学んだことを整理し、発表する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予）発表準備 復）レジュメをもとに議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ (CF201)			担当教員	尾場　均		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
社会人として必要な幅広い教養的知識を有し、デザイン力、コンピュータや放送に関わる資格取得を個別に目指す。(コンピュータ関連資格、インターネット情報士、ビジネス著作権、色彩検定など) 佐世保市のコミュニティ FM で毎週日曜日に放送される 60 分の生番組を担当する。観光の情報発信の手段として取材や調査をして FM 放送の番組を制作し情報発信する。またコンピュータの操作スキルの向上とメディアリテラシーを身につける。昨年度は番組出演、短編映画制作、動画編集など。	⑥　⑪

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。	課題レポート（ポートフォリオ）	10%
情報収集、分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。	課題レポート（ポートフォリオ）	30%
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。	課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる	授業態度・活動への参加度	10%
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。	文献を要約	10%

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う

授　業　の　概　要

インターネット技術を理解しコンピュータ関連の資格取得関連はメディアルームや演習室で実施する。

まちづくりや放送に関する演習は現地で実施し、学内スタジオや中心市街地に設けられた放送スタジオにて行う。

この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：なし
参考書：
指定図書：『伝える力』PHP 研究所

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。
情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。
※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。
観光マネジメント　グローバルツーリズム　スポーツツーリズム

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Web の演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
5	活動参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点をインターネットで調査
6	資格試験対策	資格取得の内容分析	予：資格の調査分析
7	プレゼンテーション	プレゼンテーション作成の基礎ソウトウエア操作の演習	予：プレゼンテーション機器の活用
8	デザインツールの活用	ソフトウエアの操作習得	予：映像関連ソフトの導入
9	デザインツールの活用	アニメーション画像技術、画像編集	予：映像関連ソフトの活用
10	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（パス・アンカー処理）	予：デザイン関連ソフト導入
11	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（レイヤー・グラデーション処理）	予：デザイン関連ソフト活用
12	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
13	情報発信	コンテンツ作成と管理、番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
14	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：コンピュータを使い作成する
15	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：番組テーマを決定して作成原稿の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA　(CF201)			担当教員	佐野　香織		
展開方法	演習	単位数	1　単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会をつくる学びのうち、基礎的な知識を総合的に扱い検討する力を培うことを目的とする。ことば、文化、社会の課題に関する知識を学び、フィールドワーク、実践を通して、主体的に気づきを問いなおし、多文化共生社会を考えていく力を培う。	①④⑤⑥⑧⑩

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	多文化が進む日本をとり巻くことば、文化、社会に関する基礎知識を理解することができる。	レポート	15　%
情報収集、分析力	フィールドワークで身の回りの課題の情報収集をし、分析、考察することができる。	発表資料 事前・事後学習	10　% 20　%
コミュニケーション力	多様性を考え、対話することができる。	発表 ディスカッション	45　%
協働・課題解決力			
多様性理解力	グループでの対話、フィールドワークを通して多様性を理解することができる	発表 相互評価 自己評価	10　%

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

本演習で学んだ基礎知識に関する理解と考察（事前・事後学習、レポート）で 45%、身近な課題を考え検討する発表セッション運営（資料、運営、ディスカッション）で 45%、授業で行うグループディスカッション、活動参加貢献、協働での学びへ評価（自己、相互評価）で 10%、で評価する。各課題に題するフィードバックは授業内で行う。

授　業　の　概　要

働く場、日々の暮らし、観光の場においても異なる文化的背景を持つ人々と共に生きていく時代、ことばは重要な役割を果たす。本演習では、これからの社会における「ことば」のあり方を考え、新たな「ことば」をつくり発信していくために、対話、フィールドワークを通して基礎知識を学んでいく。

※スケジュールは変更することがある。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：有田佳代子ほか（2018）『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社

参考書：適宜紹介する

指定図書：細川英雄『対話をデザインする』ちくま書房

授業外における学修及び学生に期待すること

このゼミは、様々な観点からことばで人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。学内外で色々な人と会って話すことが好きな人、主体的にプロジェクトができる学生に向いています。留学生が受講する場合は、事例を読み解くことができること、自分のことばでまとめながらケースセッション運営できること、記事や報告レポートを書き発信することができる日本語力が必要です。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：教科書の「はじめに」を読んでくる 復習：個人目標をポートフォリオに書いてくる
2	面談	前学期の省察　本学期の目標設定	本学期の目標設定
3	異文化間ソーシャルスキル	多様な文化を持つ人が多文化社会を共に生きていくことを理解し、考えていく	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習:「まとめ」を書く
4	寛容性 「心が広い」とは？	社会における寛容性、不寛容性について学び、今後の姿勢を考えていく	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習:「まとめ」を書く
5	アサーション・トレーニング	自分の感情を適切に表現し相手に伝える・伝えないことを考える	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習:「まとめ」を書く
6	コンセプトづくり①	フィールドワーク①―１	予習：フィールドワーク準備 復習：まとめ、ふりかえり
7	コンセプトづくり②	フィールドワーク①―２	予習：フィールドワーク準備 復習：まとめ、ふりかえり
8	ユニバーサル・デザイン	フィールドワーク②	予習：フィールドワーク準備 復習：フィールドワークまとめ
9	ユニバーサル・デザイン	ユニバーサル・デザインの基本的な概念を理解し、実際の日常生活を取りまく環境を考えていく。	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習:「まとめ」を書く
10	多様な「ことば」とコミュニケーション	フィールドワーク③	予習：フィールドワーク準備 復習：フィールドワークまとめ
11	多様な「ことば」とコミュニ絵k-ション	広いい意味での言語（手話、方言、色、音等）のあり方を知り、これからの「ことば」を考える	予習：指示された箇所を読み、課題をしてくる 復習:「まとめ」を書く
12	発表準備	ペア、またはグループで準備	発表準備
13	発表	発表　フィールドワーク①	予習：発表準備 復習：省察シート
14	発表	発表　フィールドワーク②、③	予習：発表準備 復習：省察シート
15	ふりかえり	今学期の学びとセッションのふりかえりを行い、次学期の学びを考える	予習：これまでの省察 個人ポートフォリオ記入 レポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ(CF201)			担当教員	城本　高輝		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
世界自然遺産、世界文化遺産は、日本全国の旅行者を魅了しています。日本の各地域はこれらの観光資源を積極的に活用し、地域の経済活性化に取り組んできました。しかし、新型コロナウィルス感染拡大により、自由に旅行に行く事が難しくなってしまいました。本来、学生時代に旅行に行くことは、非日常を過ごすだけでなく、様々なエリアの文化、食、観光を五感を通して経験できる貴重な機会となります。この授業では、世界遺産の知識を活用しながら、地域連携活動の魅力を理解し、地域連携活動を通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に付けてもらいます。	①⑥⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	学内教育を中心として基礎的な手法を学び、あらゆる部分で専門的な経験が身に付きます。	・発表会	10%
情報収集、分析力	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本的な情報処理ができる技術が身に付きます	・課題レポート	30%
コミュニケーション力	演習の随所に学生間での交流機会を設け、発表の機会を経験することで自己表現力が身につきます。	・発表の表現力	40%
協働・課題解決力	観光全般についての理解力と創造力が身に付きます。深く考えることで自らの思考力を磨くことができます。	・発表前の表現力	10%
多様性理解力	学校で学んだ観光に関する基本的な知識をもとに、観光学の観点から世界の多様性を理解できます。	・試験	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

グループ内でのコミュニケーション力と情報収集、分析力に対する達成率を重視します。課題レポートも随時行い、全員の発表会も開催します。授業の出席率、授業態度、および学習実績を参考としながら評価します。

授　業　の　概　要

この授業では、日本全国の世界自然遺産、世界文化遺産、有名観光地を地域ごとに紹介し、世界遺産の観光業における役割を講義します。現在、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、自由に海外旅行をするのが難しい状況になっています。この授業でしか学べない面白い観光地も紹介します。全員で、世界遺産検定資格取得を目指します。また、この授業で学習した知識を活用して、地域連携活動を実施し、プレゼンテーションをしてもらいます。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：きほんを学ぶ世界遺産 100 世界遺産検定 3 級公式テキスト
参考書：世界遺産検定公式過去問題集 3･4 級 2021 年度版

授業外における学修及び学生に期待すること			
準備学習は、自分の興味のある世界遺産、有名観光地を調査し、理解することです。新型コロナウィルス感染防止の観点から、今年はインターネット、テキスト等で調査することが基本となります。また、企画書などの表現力、プレゼンテーション力の向上を意識した学習も必要です。観光を学びながら、「社会人基礎力」を身に付けることを推奨します。学生の間に、世界遺産検定の受験も推奨します。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の流れ	すべての内容とスケジュールの説明、それに将来に向けて期待すること、達成目標を説明します。	シラバスを十分読み込み、疑問があれば事前にまとめる。
2	個別面談①	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。	面談のための準備
3	個別面談②	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。	面談のための準備
4	世界遺産検定対策①	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
5	世界遺産検定対策②	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
6	世界遺産検定対策③	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
7	世界遺産検定対策④	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
8	地域連携活動ミッション提示	ミッションを理解し、魅力のある地域連携活動について考える。	インターネット、ガイドブックなどで情報収集する。
9	地域連携活動①グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
10	地域連携活動②グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
11	地域連携活動③グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
12	地域連携活動④グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
13	地域連携活動⑤グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を取りまとめる。
14	地域連携活動①プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。
15	地域連携活動②プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ (CF201)			担当教員	竹田　文雄 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
「初歩のイタリア語会話」の学修をとおして、世界でも屈指の観光大国であるイタリアの文化とエッセンスを感じることに主眼を置き、同時にイタリアの観光資源や世界遺産にも触れていきます。また本演習での学修と実践を通して得るいろいろな「気付き」、「発見」を生かして、社会から求められる「主体性」、「ホスピタリティ」の修得に努めていきます。	①②⑩⑫

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			%
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等を活用できる。 （新しいことを始める際の情報の収集と、それら情報の取捨選択。）	・プレゼンテーション	20%
コミュニケーション力	自らが率先してイタリア語を話してみるという確固たる意志を持ち、毎回の課題に積極的に参画できる。	・課題参画 ・プレゼンテーション	30% 30%
協働・課題解決力	グループ内での会話の実践と、その場の取り纏めができる。 （アウトプットの実行。）	・課題参画	20%
多様性理解力			%

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

何事にも積極性を求めます。特に「発音練習」、「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の３つの要素を主な評価軸とします（評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。

授　業　の　概　要

初回から最終回まで、イタリアを旅行する時に最低限知っておきたいイタリア語のフレーズや言い回しを、メンバー全員で「声に出して学ぶ」ことを基本とします。あいさつや自己紹介などの基本的フレーズからはじめて、2往復以上の会話までを学びます。「イタリア語会話」へのチャレンジをすべてにおいての基本とするので、バンバン話してもらいます。授業スキームは「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」ものであり、「担当教員がメンバー学生に対して聴かせる」ものではありません。学外調査等での授業振り替えの可能性があり、効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な１コマあたりの授業外学修時間は４５分とします。

教　科　書　・　参　考　書

教科書/参考書：『30 日で話せるイタリア語会話』: アレッシオ・コッポラ　ナツメ社
指定図書：　　『30 日で話せるイタリア語会話』: アレッシオ・コッポラ　ナツメ社。

授業外における学修及び学生に期待すること

この演習のキーワードは「好奇心」。　あたらしいことを会得する楽しさや喜びを感じてもらうことに重きを置きますので、学生の皆さんの自発的な積極性に期待します。そして「第 2 外国語はイタリア語」と言ってみたい学生の参加に期待します。なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もないです」が口癖の学生、指名されても「無言」の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の演習は苦痛をともなう時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていません。

回	テーマ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の導入	この一年で何を目指すのか？の確認。 演習全体の方向性の説明とメンバーの自己紹介、等。	予：シラバスの読込み。 ３分自己紹介の準備。 復：何を目指すのか？を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を５分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を５分間で発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
4	言ってみよう（1）	・あいさつをする。 ・名前を言う。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
5	言ってみよう（2）	・出身地、国籍を言う。 ・職業を言う。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
6	言ってみよう（3）	・興味、専攻を言う。 ・年齢を言う。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
7	言ってみよう（4）	・所有を言う。 ・好みを言う。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
8	言ってみよう（5）	・要望を言う。 ・感想を言う。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
9	言ってみよう（6）	・「言ってみよう」の総集編	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
10	話しかけてみよう（1）	・名前を聞く。 ・調子を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
11	話しかけてみよう（2）	・出身地を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
12	話しかけてみよう（3）	・何をしているかを聞く	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
13	話しかけてみよう（4）	・何かを聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
14	話しかけてみよう（5）	・数字を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
15	前期総括	・「言ってみよう」、「話しかけてみよう」の総括。	予：個人総括の仕上げ

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ　(CF201)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
さまざまな地域課題についての課題と各地域の共通点について SDGs の視点を通した持続可能性をテーマに理解します。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解決につながる様々な事業展開の事例研究を通して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。	②⑥ ⑦⑫

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・SDGs の理念や地域観光とのつながり理解する。 ・現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。	レポート作成	20%
情報収集、分析力	域内における社会課題の最新の情報に触れ､同様の事例情報の収集や､関連する地域のテーマと比較して検討することができる。	・授業への積極的な姿勢	30%
コミュニケーション力	・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 ・課題に積極的に取り組み、メンバーの考えを尊重しつつ、自分の考えも説明することができる。	・プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	自分の役割を設定し､グループでの企画書作成作業に貢献する。	・授業への積極的な姿勢	10%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

「授業への積極的姿勢」(40%) は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。
「レポート」(20%) は内容の論理性・独自性を重視して判断します。
「プレゼンテーション」(40%) は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価する。
フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。

授業の概要

SDGs の基礎知識の習得から地域課題に関する認識を持ったうえで、地域のおける旅行業・観光業の課題を考え、あるべき観光地の方向性についてグループで調査、議論を行う。地域における観光まちづくりや観光事業者の現状や観光客との関係性を理解し、それぞれにおける課題の論点を洞察しながら、新しい時代の地域観光の在り方について、その成果をメンバーとともに研究・発表を行います。
この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とします。

教科書・参考書

教科書/参考書：『図解でわかる SDGs』平本督太郎（メイツ出版）
指定図書：『持続可能な地域の作り方』筧　裕介（英治出版）

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習では社会課題を持続可能な視点で考え、「規範的・倫理的判断力」の獲得を目標に、多くの学外機関の方との連携や協力の中で自らの考えを深めていくことが求められます。新しい時代の社会に貢献するアイデアを実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。

回	テーマ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	（予習）事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	（予習）自身のこれまでの取り組や興味・関心をまとめてくる。
3	SDGs の 基礎知識習得①	SDGs の基本や取り組む意味について	（復習）学習内容と教科書の読み直し
4	SDGs の 基礎知識習得②	SDGs の基本的な概念（17 のテーマ）、用語について学ぶ。	（復習）学習内容と教科書の読み直し
5	SDGs の 基礎知識習得③	SDGs のテーマごとの実態について調べて発表する	（予習）「17 のテーマのうちから一つ選んで実態を調べる」
6	SDGs の 基礎知識習得④	各グループの発表と振り返り	（復習）自分の興味・関心をレポートにまとめる
7	SDGs の 基礎知識習得⑤	地域課題の連鎖について考える	（復習）これまでの学びから自分の興味関心をまとめる。
8	SDGs と観光①	地域課題の解決手段としての地域観光の課題と持続性について考える	（予習）県内の観光資源についてまとめてくる。
9	SDGs と観光②	テーマに従って地域観光の課題について調べて発表する。	（復習）課題から具体的な論点を考える。
10	グループワーク①	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジューリング確認。	（予習）調査対象の絞り込み。
11	グループワーク②	フィールドワーク	（予習）調査ポイントの確認
12	グループワーク③	グループごとの進捗・経過の発表	（予習）発表内容の論点確認
13	グループワーク④	担当教員と各グループ別に企画案の内容確認・精査	（予習）自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク⑤	プレゼンテーション準備	（予習）発表準備
15	成果発表	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	（予習）グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ (CF201)			担当教員	山内　美穂		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、ことばや異文化理解について考えます。「ことば」の背後にある「ルール」を見出すことを通して、考える力や発見する力、説明する力を養います。また、演習を通して異文化理解や多文化共生社会におけるコミュニケーションについても考えます。	①④⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	自分が担当した「問い」の答えについて分かりやすい資料を作れる。 テーマに沿って調べ、プレゼンテーションできる	発表資料 プレゼンテーション	20% 20%
コミュニケーション力	自分が担当した「問い」の答えについて自分のことばで説明できる。 他人の発表に対して意見を述べられる。 グループメンバーと協力して発表やプレゼンテーションの準備ができる。	発表 議論 発表準備	30% 20% 10%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

自分の担当箇所の発表資料の作成で 20%、授業での発表で 30%、プレゼンテーションで 20%、授業の議論への参加で 20%、発表準備の状況で 10%を評価します。発表内容、プレゼンテーションに関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。

授業の概要

履修者は、テーマに沿って教員が投げかけた「問い」について考え、議論しながら、ことばや異文化理解について学習します。また、各テーマの発表者は、授業の中で出されたテーマに対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人も、配布した資料の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。その他、いくつかの演習を通して、ことばについて、また、さまざまな文化背景を持つ人が暮らす社会や観光の在り方について考えます。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。

教科書・参考書

教科書：授業中に指示する

参考書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店，2020

指定図書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店，2020

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、ことばに関心がある学生や、異文化理解や多文化共生社会に興味がある学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。

授業外でも目や耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。また、各国各地出身の仲間と協働することを楽しんでほしいです。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの仲間、お互いを知る。 授業の進め方、発表の方法について説明。	予習：「シラバス」を読んでくる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	地域活性化を学ぶ①	住んでよし訪れてよしの街づくりをしている雪浦地域について学ぶ。	予習：「雪浦」について資料を読んでくる。 復習：イベントでの自分の役割を考える。
4	地域活性化を学ぶ②	住んでよし訪れてよしの街づくりをしている雪浦地域のイベントに出店参加する。（学外学習）	予習：「雪浦のイベント」について資料を読んでくる。 復習：イベントを振り返る。
5	異文化理解とは何だろう	演習を通して「異文化理解」について考える	予習：「異文化理解」について資料を読んでくる。 復習：異文化理解課題。
6	異文化交流①	他大学の各国留学生とオンライン交流①	予習：「異文化理解」について資料を読んでくる。 復習：振り返りシート記入。
7	バーンガ	「バーンガ」というゲームを通じて、異文化に接触時の疑似体験をする	予習：「異文化理解」について資料を読んでくる。 復習：振り返りシート記入。
8	非言語コミュニケーション	「非言語コミュニケーション」について理解する どんな「非言語コミュニケーション」があるか考える	予習：「非言語コミュニケーション」について資料を読んでくる。 復習：関連課題。
9	外国語でのコミュニケーション	演習を通して「外国語でコミュニケーション」することの楽しさや難しさを考える	予習：「外国語でのコミュニケーション」について資料を読んでくる。 復習：学んだ外国語復習。
10	異文化交流②	他大学の各国留学生とオンライン交流②	予習：「異文化理解」について資料を読んでくる。 復習：振り返りシート記入。
11	観光とことば① 「やさしい日本語」と観光のことば	「おもてなし」のことばを「やさしい日本語」に。	予習：「やさしい日本語」について資料を読んでくる。 復習：案内表示を「やさしい日本語」に変える課題。
12	観光とことば② 通訳案内士の仕事	通訳案内士の仕事や現状について話を聞いて理解する。（ゲストスピーカー）	予習：「通訳案内士の仕事」について資料を読む。 復習：講話から考えたことを振り返りシートに書く。
13	「日本語のことば」を考える ☆オノマトペ①	オノマトペについて理解する。	予習：配布資料「オノマトペ」を読む。 復習：オノマトペを探す
14	「日本語のことば」を考える オノマトペ②	学内と学外で、オノマトペをさがして分析しよう。	予習：配布資料「オノマトペ」を読む。 復習：さがしたオノマトペの分析。
15	最終プレゼン	本学期に学び関心がある項目についてプレゼンテーション。	予習：学期内に学修した内容をプリントなどで復習。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ (CF201)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1　単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
文化人類学は、「人間、国際、社会、自然」という本学がキーワードとする学びを体系的に網羅する学問であり、専門演習Ｉ～Ⅲを貫くディシプリンである。中でも「人間理解」は、人類学がその名の通り探求の中心に据えるものであり、ヒトを人たらしめる文化を深く掘り下げていく。その糸口として、自らが属する文化から一歩踏み出し、異文化に直接関わり触れる他者理解の過程で培った共通言語を通し、深遠な意味世界へアクセスを試みる。同時に、地球上の様々な社会のあり方、カラフルで多様な文化の差異を国際的に比較し、人間内部だけではなく種としての特性と豊かさを、自然との関係性から探っていく。その学びの魅力の一端を、入門編として、ともに感じ取ってもらいたい。	②④⑥⑦⑧⑩⑪

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	文化人類学的知見に基づいて「文化」「異文化」を捉え直し、体系的に説明ができるように、関連書籍や概念を調べ自分なりの理解を深められる。	・レポート ・討議参画 ・グループワーク	30%
コミュニケーション力	他者理解の重要性と無知の知を理解し、自己の成長や認知能力、課題解決や理解に応用できる。実践的にフィールドワークを通して異文化理解が深められ、オフクラスでも活用することができる。	・レポート ・討議参画 ・プレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	プレゼン発表に向けて課題を的確に把握し、仲間と協力して解決に向けた方策を独自に立案し、調べ、着実に実行できる。	・討論参画 ・グループワーク ・プレゼンテーション	15%
多様性理解力	文化人類学の意義を理解し、大学での学びの構築の基盤とできる。自文化とともに異文化を深く理解し、課題設定やグループワークにも他者理解に基づいて行動するなど、応用ができる。	・討議参画 ・グループワーク ・意見の陳述	15%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

グーグルクラスを基盤として授業を進行し、授業で使用するマテリアル提示や課題の提出とその評価は、この ICT をプラットフォームとする。添削や学生同士の振り返りなどフィードバックを双方向に機能的にし、評価を見える化するねらいがあり、初日に使い方を説明する。全過程を通した成長と論理的思考能力の向上、課題解決や自己分析、表現の変化などに評価軸を置き、筆記試験は行わない。プレゼンの発表だけでなく、それに至る過程、取り組み姿勢、事前準備、特にフィールドワークやグループワークなど実践を通した学びをより重視する。故に、目に見える受講態度だけではなくオフクラスの取り組みが反映される提出物に重きを置く。中でも、リアクションペーパーによって授業を構成する為、アカデミック・スキルを駆使し、独自性のある洞察、分析によりクラス運営に貢献すると思われるフィードバックを積極的に評価する。参加型の演習なので、無断欠席の場合は該当授業のポイントは与えられないので、注意すること。

授業の概要

この授業は PBL であり、関心がある課題解決型学習をプロジェクトとして取り組み、文化人類学的理論と手法でアプローチしていく。構成としては反転授業となり、授業前半で得たインプットを後半のグループワークでアウトプットし、オフクラスでは、授業全体で得たインプットを次の授業に生かすために復習し、グループワークやディスカッションをより豊かなものにしていくことが望まれる。また、プロジェクトの発表として中間と最終日にフィールドワークや授業のインプットを反映したプレゼンテーションをグループで行う。講義では、個々の内容に関連したビジュアルエイドや動画などを積極的に取り入れながら楽しく共に学び、English for Specific Purpose(ＥＳＰ)として観光を通して英語が学べるよう、共通言語を英語とする。アクティブに参加できるようにフレーズやいいまわしなど必要と思われる単語や表現を前もって予習して臨むこと。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。基本的な構成としては、前半が概念的理解、後半が理論的実践で知識の体得と経験知を深める。

教科書・参考書

教科書：『これからの時代を生き抜くための文化人類学』　奥野克巳　辰巳出版　2022 年
参考書：『人類学とは何か』ティム　インゴルド　亜紀書房　2020
：『メイキング文化人類学』　浜本満　編　世界思想社　2019 年
指定図書：『パパラギ』エーリッヒ　ショイルマン　SB 文庫　2009

授業外における学修及び学生に期待すること

人類学は「人々とともに学ぶ学問」である。他者を真剣に受け取り、属性よりも関係性から流動的に捉え、細分化よりも統合する知恵の学として実践知を確立し、世界の本質をかいま見る契機を作ってきた。異なるからこそ与え合うことができ、違うからこそ尊重し合える「関係しあう存在」として人間を捉え、全ての人にとって居場所がある世界を築く方法である「ケアの倫理」を通して、「生のプロセス」に対して開かれ、人間とその文化への理解が深まることを願う。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 全体の導入	メンバー自己紹介 演習概略および方向性やゼミの運営方法を確認する	事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる
2	面談・到達目標設定	面談により、到達目標の進捗状況や各自の問題意識の持ち方等を確認、目標設定を行う	興味・関心をまとめ、課題や目的意識を検討しておく
3	文化人類学とは何か（1）	教科書を足掛かりに、ベースとなる学問的理解を深める	教科書を読みこみ、文化人類学のエッセンスをくみ取る
4	文化人類学とは何か（2）	存在論的展開など理論的パースペクティブの変遷について学ぶ	教科書を読みこみ、自分なりの文化人類学を理解する
5	文化とは何か（1）	ホーリスティックな視座と文化人類学の文化概念について習得する	文化について定義ができるようにしておく
6	文化とは何か（2）	社会構築主義や構造主義など、社会科学のアプローチを学ぶ	文化を再定義できるようにしておく
7	異文化とは何か（1）	文化相対主義を非日常と自明性の観点を学ぶ	異文化について定義ができるようにしておく
8	異文化とは何か（2）	オリエンタリズム、ポストコロニアリズムなど人類学の基本概念をクリティカルシンキングから学ぶ	異文化について再定義ができるようにしておく
9	中間発表	授業でのインプットによって変化した文化概念を具体例とともに共有する	文化人類学について定義ができるようにしておく
10	無知の知について	課題探求とその基本的姿勢について学ぶ。 コミュニケーションの重要性を再認識する	無知の知について調べ自分なりの理解をしておく
11	方法論について	フィールドワークの意義と技法について学ぶ	観察と質問について調べておく
12	課題設定	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、文化人類学的課題を探す
13	課題設定	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、文化人類学的課題を探す
14	専門演習Ｉ全体の振り返り	１年生の演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につなげるのかを考える	専門演習Ｉ全体で学んだことを再確認する
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う	半期のまとめ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA(CF201)			担当教員	浦郷　淳		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習のテーマは「経験と教育」である。経験とは、これまでの生活の中全てで得てきたものであるが、ここでは特に学修履歴に焦点をあてる。そして学修履歴と自身がこれまでに受けてきた教育とを結び付け、今様々にある教育の根幹に関心を向けられるように導きたい。演習では、自身の経験を整理し、文献や報告書と照らし合わせながらレジュメを作成、発表し、質疑応答・議論をする中で自らの学修を価値づけられるようにしていきたい。その過程で、情報を整理・分析する能力、集めた情報を的確に表現し、論理的に示す能力、ディスカッションを通して受講者相互の相違を理解する多様性の理解力、これら基礎力の養成をはかりたい。	③⑤⑥⑧

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	データや資料等の文献を的確に分析することができる。 発表を基に、自身の経験を類別することができる。	レジュメ レポート等	20% 20%
コミュニケーション力	レジュメを用い、聞き手を意識した表現ができる。 発表に関して、他の受講者と質疑応答・議論に参加できる。	発表・応答 質疑応答・議論	20% 30%
協働・課題解決力			
多様性理解力	自らの経験と他者の経験の違いを理解し、経験の多様性について尊重した上で議論をすることができる。	質疑応答・議論	10%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

○　評価については、レジュメの様式・内容を 20%、発表と質疑応答・議論を 60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを 20%の比率で評定する。
○　レジュメは、①様式の順守②引用文献のルールの順守③事実と考察、分析の的確さ④自らの学修の履歴の整理等で評定する。レジュメの作成方法については演習中に例示し、随時修正個所の指摘やアドバイスを行う。
○　レポートは、発表後に提出する。提出方法については授業内で提示する。①議論を受けた加筆修正②自らの学修の履歴の整理等で評定する。
○　発表者は、①聞き手を意識した資料の用意と発表の様子②質問の意図を理解した応答等で評定する。
○　質疑・議論では、①端的な質問②相手を尊重した議論で評定する。

授業の概要

授業については、概ね次の手順によって進める。
1. 自身の経験について表出し、整理し、分析する手段について理解する。(思考ツール)
2. 学校教育に焦点をあて、学校教育を成立させている枠組みについて理解する。(教育課程論)
3. 自身の学修経験が、学校教育の中においてどのような位置づけであるのかを整理する。
4. 自身が整理したものを発表、共有し、自らの学修経験を価値づける。

この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する）参考書：奈須正裕『子どもと創る授業』ぎょうせい（2013）
指定図書：松尾睦『経験からの学習』同文館出版（2010）文部科学省「学習指導要領」※授業で説明する。

授業外における学修及び学生に期待すること

1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。
2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。
3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。
4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。留学生の受講も歓迎しますが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧めます。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予）シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予）本学期の目標設定 復）本学期の目標の確認
3	経験とは何かを考える①	幼少期の子どもの経験について、文献を基に検討する。	予）配布資料の通読 復）検討したことを振り返り、幼少期の経験について整理しておく
4	経験とは何かを考える②	学齢期の子どもの経験について、文献を基に検討する。	予）配布資料の通読 復）検討したことを振り返り、学齢期の経験について整理しておく
5	自らの経験を整理する	自らのこれまでの学修の履歴を振り返り、記憶しているものを整理する。	予）自らの経験を振り返り整理しておく 復）受講後思い出した経験等を整理しておく
6	自らの経験を辿る①小学校	整理した経験のうち、小学校に関するものが学校においてどのような位置づけであるのかを、小学校学習指導要領を基に検討する。	予）小学校の学習指導要領に目を通す 復）小学校の学習指導要領で経験の内容を振り返る
7	自らの経験を辿る②中高	整理した経験のうち、小学校に関するものが学校においてどのような位置づけであるのかを、中学校・高等学校学習指導要領を基に検討する。	予）中・高の学習指導要領に目を通す 復）中・高の学習指導要領で経験の内容を振り返る
8	自らの経験に焦点をあてる①	自らの経験のうち、記憶している学校教育下におけるものの中から、発表する事項を選択する。 発表の方法を学ぶ。	予）自らの学校での経験を整理しておく 復）発表方法を確認する
9	焦点をあてた経験を発表する①	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予）レジュメ作成もしくは不明語句調べ 復）議論でわからなかった語句調べ
10	焦点をあてた経験を発表する②	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予）レジュメ作成もしくは不明語句調べ 復）議論でわからなかった語句調べ
11	焦点をあてた経験を発表する③	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予）レジュメ作成もしくは不明語句調べ 復）議論でわからなかった語句調べ
12	自らの経験に焦点をあてる②	発表以外での記憶している経験について、受講者相互に紹介し、学校教育においてどのような位置づけになるかを全体で議論する。	予）発表していない学校での経験を整理しておく 復）自らの経験を再度学習指導要領で見直す
13	学校における経験について議論する①	受講者が記憶していた経験が、学校教育上どのような意義があるのかを全体で検討するとともに、覚えていない経験について資料を基に検討する。	予）学習指導要領に目を通しておく 復）学校教育上の経験について振り返る
14	学校における経験について議論する②	記憶していないが、取り組んでいるであろう経験を抽出し、その学習の意義について検討する。	予）忘れている経験を思い返す 復）議論を振り返る
15	経験と教育について整理する	本演習で学んだことを整理し、議論する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予）学んだことを振り返っておく

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA(CF201)			担当教員	江島　弘晃		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
専門演習 IA および IB ではスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析する能力を習得することを目的とする。とくに、健康をキーワードにスポーツとの関連性や心身統合の調和における運動の意義等を資料による解説、発表、討論を通して理解を深める。その際、学生が PC などを用いた文書・表図からスライドを作成することで、プレゼンテーション能力を習得する。IA では受講者が関連分野に関するテキストの精読と正確な要点を集約することができることを目標とする。	②⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	・ スポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析することで自身の競技種目又は健康管理に関する問題点を抽出することができる。	・ 情報収集	30%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べることが出来る。 ・ 自分自身が調査した内容を簡潔に発表することが出来る。	・ 発表内容 ・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	70%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

各自が設定した課題・テーマに関する先行研究や資料を選択することでスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、それらを基にした適切な要約を作成しているか否かを評価する（評価比率:30%）。また、作成した要約を自身の考察をプレゼンテーションで適切に表現し、他者の意見を踏まえた議論が展開出来ているか否かを評価する（評価比率:70%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。

授　業　の　概　要

スポーツ・健康科学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いて文書・表図作成またはスライド作成の技法を習得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッション（議論・討論）は参加者全員で行う。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない
参考書：長澤純一他「大学生のための「健康」論」（道和書院）ISBN：978-4-8105-2132-0
指定図書：長澤純一他「大学生のための「健康」論」（道和書院）ISBN：978-4-8105-2132-0

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習を通してスポーツ・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できる基本的な知識を獲得することを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することも目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 自己紹介 ・ 連絡網の作成	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備（1）	・ ワード、エクセル、パワーポイントなどを取得	予習：PC の準備 復習：ソフトの使用方法を復習
4	輪読の準備（2）	・ ワード・パワーポイントによる資料作成方法の習得	予習：事前にソフトを活用する 復習：資料作成の方法の復習
5	輪読の準備（3）	・ 教員による参考書・テキストなどの紹介	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
6	輪読（1）	・ 教員による輪読・発表 （テーマ・健康を考える）	予習：健康に関する自身の考察をまとめる 復習：健康の意義について復習
7	輪読（2）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・健康とメンタルヘルス）	予習：メンタルヘルスの調査 復習：現代のメンタルヘルスについて復習
8	輪読（3）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・健康と体力）	予習：体力に関する意識調査 復習：健康と体力の関連性について復習
9	輪読（4）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動プログラム）	予習：運動プログラムの事前調査 復習：運動プログラムの種類について復習
10	輪読（5）	・ 教員による輪読・発表 （テーマ・健康とスポーツの関係）	予習：テーマに関する事前調査 復習：生涯スポーツについて復習
11	輪読（6）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動を文化としてとらえる）	予習：運動の文化に関する調査 復習：運動文化論の概念について復習
12	輪読（7）	・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・健康と食事・栄養の関係性）	予習：健康と栄養の関連性についての調査 復習：スポーツ栄養学について復習
13	論文検索	・ インターネットでの検索方法の習得 （スポーツ・健康科学に関する事柄の調査）	予習：検索方法を調査 復習：直近のスポーツ・健康科学の事柄について復習
14	論文検索の発表	・ スポーツ・健康科学に関する調査結果の発表	予習：検索した事柄をまとめる 復習：各自の調査結果をまとめる
15	総括	・ 前期授業のまとめと休暇中の課題	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA　(CF 201)			担当教員	川上　直彦		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。	①⑤⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。	レポート・発表	15%
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。	レポート・発表	30%
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニュケーション能力を上達させることができる。	発表	35%
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。	授業参加度	20%
多様性理解力			%

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の80%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。

授業の概要

本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：適宜プリントを配布する。
参考書：適宜プリントを配布する。
指定図書：世界の歴史１：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）

授業外における学修及び学生に期待すること

古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散１	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い１	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い２	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）１	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）２	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブ・ラーニングの 類 型
本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通了解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。	⑤ ⑥ ⑦

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。	・資料収集 ・問いの設定内容	３０％ １０％
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通了解となる答えをみつけるための議論ができる。	・他者の主張を踏まえた議論の展開	６０％
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）を作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。
・運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。
・個別テーマ研究や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かといった自身の意見を述べられているかを評価する。
・フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。

授　業　の　概　要

・体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメ（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。
・この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房
参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない
教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない
教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版　＊該当年度の問題集
指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、 雑誌『現代スポーツ評論』創文企画
『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	哲学的対話という方法ＩA	超ディベート（共通了解型志向型対話）の実践ＩA （テーマ：体育やスポーツに限定しない広い範囲での関心について）	予習：『はじめての哲学的思考』を通読 復習：図書の「はじめに」と「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ＩA	主張の抽出と思考の言語化ＩA （レジュメの作成指導）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ＩA	授業/指導計画と種目の教材化ＩA （実技指導の立案）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：現代におけるスポーツの位置づけ）	予習：レジュメの初作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：スポーツのこれまでとこれから）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：ボールゲーム）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：運動部活動に関する問題）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：体育の授業の最前線）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：陸上競技関連）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ･運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツに関する仕事、都市型スポーツ、オリンピックの肯定論と批判論）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （テーマ：ニュースポーツの教材化）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA(CF201)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
スポーツトレーニングに関するテキストの輪読を通して、トレーニング、体のしくみ、さらにスポーツ科学全般に関する基礎的な知識を理解すると共に、実技により実践の基礎を経験し、習得することを目的とする。また、これらの基礎的知識や実践を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。	①　⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 体のしくみを理解し、トレーニングに関する基礎的知識を理解することができる。 ・ 各種トレーニングの実践方法を修得する。	・ プレゼン用レジュメ ・ 実技試験	10% 10%
情報収集、分析力	・ 自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニングやスポーツ科学理論の観点から考えることができる。	・ プレゼン後のディスカッション	30%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。	・ プレゼンテーション ・ プレゼン後のディスカッション	50%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション（80%）については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ（10%）については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする（授業内でフィードバック）。実技試験（10%）については、正しい方法を理論的に理解した上で実践できているかを評価基準とする。

授業の概要

スポーツトレーニングに関するテキストを輪読していく（①担当箇所・担当者の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション）。なお、②～④の行程については、担当者が事前（ゼミ時間外）に準備するものとする。また、実技は本学にて実習形式で行っていく。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない
参考書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦（監）株式会社マイナビ出版
指定図書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦（監）株式会社マイナビ出版

授業外における学修及び学生に期待すること

体のしくみやトレーニングに興味を持ち積極的に参加してほしい。また、自身のスポーツ時や日常においても、ゼミで習得した基礎知識をリンクさせ、疑問をもって自身で調べ、理解する等の取り組みを行ってほしい。
実技については、実践・体験することにより習得できるものであるから、スポーツに関わる人間として積極的な態度を期待する。
さらに、大学生としての受講態度やマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション、前学期の省察と本学期の目標設定	自己紹介、前学期の省察と本学期の目標設定、ゼミの進め方についての説明、輪読①担当決定	予習：前学期の省察と本学期の目標を考えておく。トレーニングについての本を１冊読んでおく。 復習：省察と目標の確認。ゼミ内容の全般的な確認。
2	輪読①	力学的原理･関節の構造について、輪読②担当決定	予習：身体の力学的な原理や構造を調べておく。 復習：特に身体の構造を確認しておく。
3	実技①	ストレッチの実践	予習：ストレッチの方法を調べておく。 復習：自宅で実施した内容を再度行う。
4	輪読②	骨･骨格筋の構造について、輪読③担当決定	予習：骨や骨格筋の構造について調べておく。 復習：主立った筋肉や骨の名前を覚える。
5	実技②	自体重による筋力トレーニングの実践	予習：本や雑誌で、自体重トレーニングを把握しておく。 復習：1 日に 1 回はトレーニングして身につける。
6	輪読③	筋収縮について、輪読④担当決定	予習：筋収縮について概要を調べておく。 復習：収縮のメカニズムをしっかりと覚える。
7	実技③	体幹トレーニングの実践	予習：体幹トレーニングの種類を調べておく。 復習：自宅で実施したトレーニング内容を再度行う。
8	輪読④	筋の組成･筋繊維タイプについて、輪読⑤担当決定	予習：筋肉の組成や筋繊維タイプを調べておく。 復習：筋線維の名称を数通り覚える。
9	実技④	ウォーキング（インターバル速歩）の実践	予習：インターバル速歩について調べておく。 復習：日常の歩きの中で実践してみる。
10	輪読⑤	骨格筋･運動神経系について、輪読⑥担当決定	予習：人間の神経の構造について調べておく。 復習：神経の種類の基礎的な部分を覚える。
11	実技⑤	Long Slow Distance の実践	予習：有酸素トレーニングの種類を把握しておく。 復習：週に 1 回はトレーニングして、体力向上にも努める。
12	輪読⑥	ガス交換について、輪読⑦担当決定	予習：心肺機能について概要を調べておく。 復習：ガス交換について、説明できるようにメカニズムをしっかりと覚える。
13	実技⑥	インターバルトレーニングの実践	予習：有酸素トレーニングの種類を調べておく。 復習：自身の種目の中に取り入れて再度実践してその効果を確認する。
14	輪読⑦	エネルギー産生について	予習：エネルギー供給機構を調べ、概要を知っておく。 復習：3 つのエネルー供給機構について正確に説明できるよう繰り返し学習する。
15	実技⑦	HIIT（タバタプロトコル）の実践	予習：HIIT について動画を見て概要を確認しておく。 復習：自分の種目に応じたプロトコルの使用法を考え、実践する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ　(CF201)			担当教員	陳　慶光		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、市民マラソン大会を対象にしたフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。	②⑥

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	スポーツツーリズムの基礎知識を理解することができる。	演習への参加度	10%
情報収集、分析力	市民マラソン大会の動向について調べ、各大会の特色や魅力について分析することができる。	研究レポートとプレゼンテーション	30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、調査結果をレポートとしてまとめることができる。プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。	研究レポートとプレゼンテーション	50%
協働・課題解決力	グループ調査・研究に取り組むことができる。	演習への参加度	10%
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・研究レポートとプレゼンテーション：スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。
・演習への参加度：議論やグループワークへの参加度合を評価する。
　フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィートバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。

授　業　の　概　要

本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの基礎知識を理解した上で、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期には問題設定と先行研究の渉猟、調査計画と予備調査を実施し、後期の本調査に備える。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な１コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。
参考書：適宜紹介する。
指定図書：『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社

授業外における学修及び学生に期待すること

膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。
本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習ＩからⅢにかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	教員ならびに学生の自己紹介を行い、専門演習の進め方について説明する。ゼミ担当教員と相談しながら、各自の目標設定について確定する。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	マラソン大会におけるスポーツツーリズム（1）	「前学期の省察」と「本学期の目標設定」について面談を実施する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
3	マラソン大会におけるスポーツツーリズム（2）	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	マラソン大会におけるスポーツツーリズム（3）	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
5	フィールド調査の準備（1）	フィールド調査（予行）の対象について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
6	フィールド調査の準備（2）	フィールド調査におけるデータ収集方法（アンケート、参与観察、インタビュー）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備（3）	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を予行練習する。5月末にフィールド調査を行う（暫定）。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
8	調査結果のまとめ（1）	フィールド調査を振り返り、ICT を活用したデータの整理・分析について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データの整理
9	調査結果のまとめ（2）	質的データ分析の基礎について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
10	調査結果のまとめ（3）	量的データ分析の基礎について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
11	研究レポートの作成（1）	研究レポートの作成要領を把握する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成（2）	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成（3）	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期の調査を振り返り、後期の本調査に向けて検討する。	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩＡ（CF201）			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	１単位	開講年次・時期	２年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域および博物館と連携した調査研究と教育普及 福井洞窟ミュージアムや宮地区コミュニティセンターなどと連携し、博物館の「調査研究」「展示」機能について学ぶことができる。地域文化資源に関するフィールドワークを行い、実際の展示活動を実体験することで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。	⑥⑦

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の収集・記録の方法を身に着けることができる。	授業・調査への参加度	10%
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。	展示パネル等の考案・作成	30%
コミュニケーション力	フィールドワークおよびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。	グループワークへの取り組み	40%
協働・課題解決力	地域文化資源について関心を抱き、調査・研究を行う中でゼミ生との協調性を養い、協働して課題解決に取り組むことができる。	プレゼンテーション	20%
多様性理解力			%
出　席		受験要件	
合　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・演習は、フィールドワークへの参加を中心とし、それに至るまでのグループワーク、現地調査への取り組み・態度を総合的に判断する。
・フィールドワークで得られた成果をパネルやポスターにまとめ、提出・展示することを必須とする。

授業の概要

演習の方法は以下の手順で行う。

1. 博物館における調査研究と教育普及の目的・方法を確認
2. フィールドワークのテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク
3. テーマに関する文献資料の収集と分析、および文献調査結果のプレゼンテーションの実施
4. フィールドワークの実施（6月上旬～中旬に1日実施。踏査を基本とし、地域文化資源の捜索と収集、記録作業を行う。）
5. フィールドワークを基とした展示物の執筆・作製
6. 宮地区コミュニティセンターの展示活動の実施

※フィールドワークは、教員の車で移動できる範囲で行う。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：調査地に応じて授業中に指示する

指定図書：青木豊編『人文系博物館資料論』雄山閣

授業外における学修及び学生に期待すること

この演習は、博物館学芸員としての基礎である収集・調査・展示能力を習得するものであり、フィールドワークを通じて実務能力だけでなく地域文化資源を判断する洞察力を養ってほしい。そのためには、普段から身の回りの自然や史跡等にも注意を払い、些細なことにも疑問をもってそれを解決する意識を涵養してほしい。

※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	演習内容の確認 研究方法の解説	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。 また、博物館および地域文化資源をテーマとした研究の方法について講義を行う。	予習：シラバスおよび教養セミナーB で配布されたフィールドワークについてのレジュメを再確認 復習：フィールドワーク予定地の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期の個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標を設定し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。（佐世保市内） 併せて、調査方法についても検討する。	予習：フィールドワーク調査方法の考案 復習：調査方法の再検討
4	事前学習②	フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各個で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理敵環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	予習：図書館の使い方を再確認 復習：必要に応じて文献調査を再度実施
5	事前学習③	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料（パワーポイント、配布資料）を作成する。	予習：調査した文献の確認 復習：発表用資料（PPT）、配布資料の完成
6	事前学習④	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習：発表練習 復習：発表内容、発表方法の振り返り
7	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の役割分担の再確認 復習：準備事項の確認
8	フィールドワーク	5 月下旬～6 月中旬に、日帰りで地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
9	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
10	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
11	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を完了する。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
12	展示構想①	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。また、各項目の役割分担を行う。	予習：博物館を見学してパネルを写真撮影 復習：パネル・ポスター案の検討
13	展示構想②	ゼミ内でグループワークを行い、展示に使用するパネルや題箋、ポスター等について検討する。	予習：パネル・ポスター案の検討 復習：決定内容の見直し
14	展示作業①	展示構想としてまとめた内容を基に展示パネルやポスター等を作成する。	予習：整理作業の成果の見直し 復習：成果物提出の準備
15	展示作業②	パネルやポスター等を提出し、実際に展示施工を行う。（宮地区コミュニティセンターでの現地学習）	予習：成果物提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA(CF201)			担当教員	東出　朋		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブ・ラーニングの類型
本演習では日本語の「敬語コミュニケーション」に関する基本的な知識を学ぶ。日本人学生も留学生も受講可能である。敬語の運用について学習者はもちろん母語話者も難しさを覚える。敬語コミュニケーションにおいては、語彙・文法的な正確性以上に運用上の適切性が重要である。本演習では、敬語コミュニケーションについての原則を理解し、実例を観察し、運用力を高めることを目指す。	①②③⑥⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	敬語コミュニケーションについての基本的な知識を知る。	発表 レポート	10% 15%
情報収集、分析力	コーパスや実際の談話から敬語コミュニケーションの実例を収集し、分析することができる。	発表	35%
コミュニケーション力	調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。 ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べることができる。	発表 ディスカッション	20% 20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　席	受験要件
合　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

敬語コミュニケーションに関する専門知識について、普段の発表やレポートを 30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて 30%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて 40%で評価する。練習問題や発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。

授業の概要

授業内では、輪読し練習問題を解き、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、問題を解き、自分で表現を集めたり調べたりする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、45 分とする。

教科書・参考書

教科書：蒲谷宏（2014)『敬語マスター―まずはこれだけ　三つの基本』大修館書店

参考書：特になし

指定図書：蒲谷宏編著／金東奎・吉川香緒・高木美嘉・宇都宮陽子著（2010)『敬語コミュニケーション』朝倉書店

授業外における学修及び学生に期待すること

普段から敬語コミュニケーションに関して注意を払い、他者の使用を観察すること。
日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験（JLPT)」を各自受験すること。
２年次で「日本語コミュニケーション A/B」を受講すること。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方，評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習）ルーブリック評価と読書記録の入力 復習）ルーブリック評価
3	第１章 敬語コミュニケーションとは	1.1 敬語コミュニケーションを考えるための枠組み	予習）1.1 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
4	第１章 敬語コミュニケーションとは	1.2 敬語コミュニケーションの前提となる考え方	予習）1.2 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
5	第２章 敬語の体系	2.0 敬語の体系	予習）2.0 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
6	第Ⅰ部基礎編 第１章　高くする敬語 1-1 高くする敬語(1)	1-1 高くする敬語(1)尊敬語について	予習）1-1 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
7	第Ⅰ部基礎編 第１章　高くする敬語 1-1 高くする敬語(1)	1-1 高くする敬語(1)尊敬語について	予習）1-1 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
8	第Ⅰ部基礎編 第１章　高くする敬語 1-2 高くする敬語(2)	1-2 高くする敬語(2)謙譲語Ⅰについて	予習）1-2 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
9	第Ⅰ部基礎編 第１章　高くする敬語 1-2 高くする敬語(2)	1-2 高くする敬語(2)謙譲語Ⅰについて	予習）1-2 語彙・漢字チェック 復習）練習問題
10	復習	尊敬語と謙譲語の実践練習	予習）実例検索 復習）練習問題
11	第Ⅰ部基礎編 第２章　改まりを示す敬語	謙譲語Ⅱ（丁重語）	予習）２章語彙・漢字チェック 復習）練習問題
12	第Ⅰ部基礎編 第２章　改まりを示す敬語	丁寧語・美化語	予習）２章語彙・漢字チェック 復習）練習問題
13	第Ⅰ部基礎編 第２章　改まりを示す敬語	丁寧語・美化語	予習）２章語彙・漢字チェック 復習）練習問題
14	復習	謙譲語Ⅱ（丁重語）・丁寧語・美化語の実践練習	予習）実例検索 復習）練習問題
15	総合復習	尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語の総合的な復習	予習）実例検索

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA　(CF201)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
This course provides an introduction to discussing and presenting ideas about current global affairs. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for an engaging and informative presentation.	② ④ ⑤

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力			%
情報収集、分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs	Assignments Presentation	30% 10%
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about global affairs in a way that engages their audience	In-class engagement Presentation	30% 30%
協働･課題解決力			%
多様性理解力			%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

In-class engagement (Group discussions, and active participation): 30%
Assignments (weekly writing assignments, project preparation): 30%
Final presentation: 40%
* All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (https://niu.9learn.net/ and Google Classroom)

授 業 の 概 要

In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion.この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：None
参考書：English newspapers in the library
指定図書：Hot Topics Japan 2

授業外における学修及び学生に期待すること

1. This course is conducted in English.
2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work.
3. Student expectations: Students will attend all lessons (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher before missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	Introduction	• Introduce the course and review the syllabus • Basic framework for selecting and discussing current events	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	• Conference with seminar teacher about personal goals for the semester / *Rubric Hyoka*	Prepare goals
3	Current Event Topic 1 Presentation beginnings	• Students discuss selected current events topic. • Effective introductions and message objective	Prepare current event topic 1
4	Current Event Topic 2 Basic slide design	• Students discuss selected current events topic. • Overview of basic slide design principles	Prepare current event topic 2
5	Mini-presentation 1	• Students present part 1 of their presentation	Prepare mini-presentation
6	Signposting for clarity	• Feedback on mini-presentation 1 • Using signposting to make a clearer presentation	Check feedback
7	Describing visuals	• Describing what's on your slides • Including sources	Review signposting
8	Describing visuals Engaging the audience	• Describing what's on your slides • Engaging the audience	Review slide visuals
9	Mini-presentation 2	• Students present part 2 of their presentation	Prepare presentation
10	Making a conclusion	• Feedback on mini-presentation 2 • Summarizing ideas • Re-emphasizing the message objective	Check feedback
11	Designing handouts	• The role of handouts • Types of handouts	Review conclusions
12	Doing a Q & A	• The role of Q&A • Basic participation in a Q&A • Managing difficult questions	Review handouts
13	Final Presentations	• Students present and participate in Q&A	Prepare for presentation and Q&A
14	Final Presentations	• Students present and participate in Q&A	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	• Students present and participate in Q&A • Final class discussion	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習ＩA(CF201)			担当教員	相羽　枝莉子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授業のねらい	アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学の専門テキストの輪読を通して、メンタルトレーニング、コーチングに関するスポーツ心理学の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識をもとにスポーツの現場に出向き、そこで発見した課題について、解決に向けたディスカッションを行う。	①⑤⑩

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力			
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。	プレゼンテーション資料 レポート	20% 20%
コミュニケーション力	スポーツ心理学の基礎知識について説明することができる。 スポーツ現場における心理学的課題について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。 ボランティア活動に積極的に参加し、活動することができる。	プレゼンテーション 活動の参加度	30% 30%
協働・課題解決力			
多様性理解力			

出　　席	受験要件
合　　計	100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

プレゼンテーション資料（評価比率:20%）: プレゼンテーションの担当箇所の内容を理解し、要約できているかを評価する。
レポート（評価比率:20%）: スポーツ現場での課題とその解決策について、専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。
プレゼンテーション（評価比率:30%）: 担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。
・授業への参加度（評価比率:30%）: 授業内でのディスカッションおよび学外活動に対して積極的に参加しているかを評価する。※プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料については、授業内でフィードバックを行う。

授業の概要

前半は、テキストの輪読を通してスポーツ心理学の基礎知識を幅広く学ぶ。各章の担当者を決定し、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、授業内でディスカッションを行う。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。
後半は、メンタルトレーニングに関する基礎知識を習得し、実践活動への応用を通じて、課題発見・解決についてディスカッションを行う。
なお、当該授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：使用しない
参考書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房，2012
指定図書：日本スポーツ心理学会（編）『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』大修館書店，2016

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、学外活動では、地域の方々から学ぶ者として謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨み、時間厳守や報告・連絡・相談に努めること（なお、活動にかかる交通費は、原則自己負担）。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守ること。
※本演習を選択する者は、スポーツツーリズムコースを履修することが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習･復習
1	オリエンテーション	授業の進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	授業担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読（1）	スポーツ心理学の基礎知識（1）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
4	輪読（2）	スポーツ心理学の基礎知識（2）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
5	輪読（3）	スポーツ心理学の基礎知識（3）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
6	スポーツボランティア活動	スポーツボランティア活動に参加し、心理学の観点から課題を発見する	予習：ボランティア受け入れ先のチームについて調べる
7	リフレクション	スポーツボランティア活動を振り返り、課題解決に向けたディスカッションを行う	予習：活動内容をまとめる
8	輪読（4）	スポーツ心理学の応用（1）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
9	輪読（5）	スポーツ心理学の応用（2）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
10	輪読（6）	スポーツ心理学の応用（3）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
11	スポーツ現場への応用	ジュニアスポーツ競技者へのメンタルトレーニングを参観する	予習：メンタルトレーニングに関する知識について予習する
12	スポーツ現場への応用	ジュニアスポーツ競技者へのメンタルトレーニングのプログラムを作成する	予習：メンタルトレーニングのプログラムを考える
13	スポーツ現場への応用	作成したメンタルトレーニングのプログラムを実践する	復習：活動内容を報告書にまとめる
14	スポーツ現場への応用	作成したメンタルトレーニングのプログラムを実践する	復習：活動内容を報告書にまとめる
15	リフレクション	メンタルトレーニングの実践を振り返り、課題解決に向けたディスカッションを行う	予習：振り返り課題のレポートを作成する